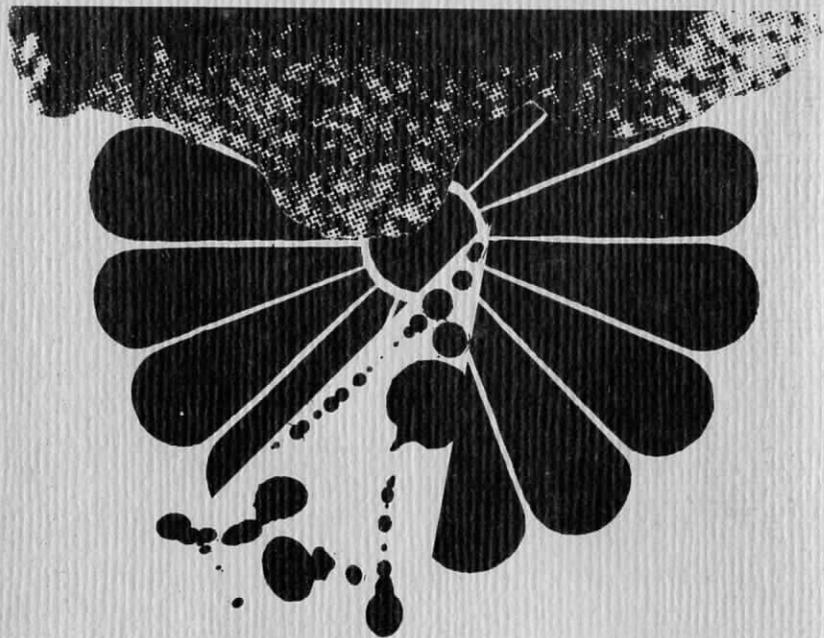


黒川芳正詩集  
言靈



原詩人叢書刊行委員会  
原詩人叢書 500円

黒川芳正詩集

言霊

原詩人叢書

目次

ことだま	6
ことば	8
くちづけ	10
火文字	12
口説き草	14
カナリア	17
流れ星	20
もみじ	21
革命風使	22
海と少年	24
旅人	26
ことだま	30

獄中で磨かれた武器	井之川巨	114
あとがき——言霊の復権に向けて	黒川芳正	116
囚人夢想曲 I		101
囚人夢想曲 II		103
自白		106
呼吸 I		108
呼吸 II		110
呼吸 III		112

傷だらけの季節		31
ケモノ・ゲリラ		34
赤人詩篇 赤い手		38
赤人詩篇 バイソン怨歌		40
反USA・赤人革命の勝利へ向けての祈り		45
隼人の呪い		56
アイヌモシリよ！甦れ		60
帰ってきたジャッカル		67
散文童話詩 詩人の死		85
「弱者」		90
ドブネズミ		91
子モグラ モグラ		92
撃つ		94
こぶし		96
かっくらえ		98
奄美のハブ		100

ことだま

詩は言霊

現に夢を呼び寄せる

詩は恋心

愛を託した言葉の抱擁

詩は血潮

萎えた心臓よみがえる

詩は祈り

自然の恵みへの感謝の祈り

詩は怒り

暴虐の鉄鎖を打ち砕く

詩は呪い

憎つゝき敵を呪い殺す

詩は火焰

穢れた世界を焼きつくす

詩は戦闘

腐った魂を撃ち滅ぼす

詩は狼煙

血煙立てた突撃歌

ことば

胸がつまりそうで死にそうなのに  
言い出せないから

小指と小指をからませて

言えばなにかが

壊れてしまいそうだから

目線と目線をからませて

紅く染った<sup>みみ</sup>耳<sup>みみ</sup>衆<sup>しゅう</sup>に

ふっ　と息を吹きかけて

音にならない言葉でなにかを伝える

その言葉を舌にからませ

唇かさねて口うつす

その言葉を語ってしまえば

世界が減んでしまいそうだから

その言葉が外気にふればたちまち

死んでしまいそうだから

くちづけ

君のおしゃべりにはまいてしま  
話し出したら切りがないから

一度しゃべり出したら

坂をころがる玉のように止まらないから  
まるで弾丸たまのつきない機関銃なんだね  
まるで枯れることの知らない泉なんだね  
だから僕はあきらめてるのさ

いさぎよく認めてしまっているのさ

言葉じゃ君に勝てないってことを

だから僕は口をつぐんで聞きほれる

ほおづえついて

頭のなかをからにして

その一瞬を狙うのさ

しくじったことのない狩人のように

君の唇 奪う その一瞬を

## 火文字

夢に燃えたち  
闇夜に目覚める  
ああ あれは夢だったのかと  
胸に手をやり  
その人影をむなしく求める  
闇夜に一言  
呟く私の  
その言葉は鬼火となって  
さあ 飛んでいけ  
あの人影を追って  
火文字となって  
闇夜に輝く炎となって

と念じつつ  
私は胸に手をやって  
記憶の淡いぬくもりに  
うつつ身むなしく燃えたたす

## 口説き草

人里離れた山中に

人知れず咲きつのであるという口説き草

その花はすみれ色にほんのりと

その実みは赤く爛爛らんらんと

昔の人はその草を

口説き草と名づけたという

その赤い実を食べると

男はどんな女も口説き落せ

女はどんな男も魅きつけられる

という

でもその赤い実には

毒のある実と

毒のない実がある

という

その区別はつかない

という

数知れぬ男と女が

山中深く分け入って

数知れぬ男と女が

口説き草の実を食べ

半数の男と女は望みを達し

半数の男と女は悶え苦しみ死んだ

という

男と女を結びつける口説き草

男と女を喰い殺す口説き草

いまも人里離れた山中に

人知れず咲きつのであるという

口説き草の実を求め

教知れぬ男と女が  
山中深く踏み入る  
とさう

## カナリア

少女はもはや歌わない  
あれほど歌好きだった少女は  
かつてはカナリアのように  
美しく聞かせてくれた囀りを  
心なごます歌声を  
もはや聞かせてはくれない

あれは雨の降る日だった  
疾走する車に跳ねとばされ  
路面に激しく打ちつけられた少女は  
言葉を見失ってしまった

でも少女の表情に悲しみの色はない  
少女の瞳に憂いはない

言葉を見失ってしまった少女の

瞳は前よりも生き生きと輝いている

あたかもその瞳のなかで

歌<sup>うた</sup>霊が踊っているかのよう

少女は瞳で歌っていた

それはまるでカナリアのように

心で織られた囀りを

心なごます歌声を

少女は瞳で語りかけていた

音のない言葉の世界のことを

歌い疲れて声が出なくなってしまう

遠い昔の歌姫のことを

言葉のいらぬ愛の心伝えのことを

言葉を知らない原古世界の

人々との心の深い交わりのことを

草木虫魚との

楽しい楽しいおしゃべりのことを